

鹽竈十福

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
 志波彦神社
 鹽竈神社 社務所
 電話 〇二二三六七 一六一(代)
 FAX 〇二二三六五 五五三〇
<http://www.shiogamajinja.jp/>



修復を終えた鹽竈神社四脚門の御神号額



三月十日の帆手祭は、江戸時代に火伏と景気回復を願って氏子らによって始められ、実に三百三十七年の歴史を誇る。帆手祭の帆の字は、漁村そして船に由来する。と共に、火伏神事の火の字、「ほのお」の「ほ」でもあるだろう。火伏についての神話で思い浮かぶのは、日本武尊の焼津での場面。野原で火攻めにあつた時、武尊は草薙剣で周囲の草を刈り払い、火打石で向かい火をつけて迫りくる火の勢いを弱めて窮地を脱した。この時、妃の弟橘比売は、命がけで我が身を救ってくれた武尊の姿を心に刻む。しかし、これが走水での悲劇となる。房総半島に向かう武尊一行が乗り組んだ船を、海峡の神の怒りによる嵐が襲う。弟橘は、神の怒りを鎮めようと海に身を投げた。海は穏やかさを取り戻し、一行は難を逃れた。この時、弟橘は美しい別れの歌を歌っている。

さねさし相武の小野に燃ゆる火の
さねさし 相武の小野に燃ゆる火の

火中に立ちて問ひし君はも

「燃え盛る火の中で私の安否を気遣って下さった君よ」と、それは武尊への愛と感謝に満ちていた。この愛と犠牲の物語を日本人は大切に語り継いできたのである。

帆手祭翌日は東日本大震災追悼式、特に、避難指示や救助の職責にあつて犠牲となられた方々への哀悼の思いが胸をつく。愛する家族を地域の人々を命懸けで守ってきた無名の勇者たちの歴史を、我々はもっている。大神輿を担いで急峻な表坂を下り上りする火伏祭は、火中に立たんとする勇気を授けてくれるのだ。

平成の大御世三十年目にあたり

本年、天皇陛下は御即位されてより三十年目を迎えられました。

この佳節にあたり、今号より三回にわたり、天皇陛下の国内での御足跡をお言葉や御製を中心にたどりませう。

〈第一回〉平成十年まで

昭和六十四年

一月七日

昭和天皇 崩御

第百二十五代天皇に踐祚

平成元年

一月八日

新元号「平成」に改元

一月九日

即位後朝見の儀

お言葉（前略）ここに、皇位を継承するに当たり、大行天皇の御遺徳に深く思いをいたし、いかなるときも国民とともにあることを念願された御心を心としつつ、皆さんとともに日本国憲法を守り、これに従って責務を果たすことを誓い、国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望してやみません」

八月十五日

全国戦没者追悼式にご臨席

九月九日

広島平和公園の原爆慰霊碑を御拝礼

御製

死没者の名簿増え行く

慰霊碑のあなた平和の

灯は燃え盛る

御製

平成二年

十一月十二日

即位の礼正殿の儀

十一月二十二日～二十三日

大嘗祭

御製

父君のにひなめまつり

しのびつつ 我がおほにへのまつり行なふ

御製

平成三年

七月十日

長崎県雲仙普賢岳大規模火山噴流による被災地をご慰問

御製

人々の年月かけて作り来し

なりはひの地に

灰厚く積む

御製

平成四年

五月十五日

沖繩復帰二十周年記念式典

に

ご臨席

九月二十四日

日本遺族会創立四十五周年記念式典にご臨席

御製

戦に散りにし

人に残されし

うからの耐へし

ながとせ思ふ

御製

十月六日

宮城県に地方事情ご視察のため行幸啓

当社に幣饗料御下賜

（七日に幣饗料御奉奠奉告祭齋行）

御製

平成五年

四月二十三日

沖繩県に天皇として初の行幸啓

御製

お言葉（前略）先きの戦争では実に多くの人々の生命が失われしました。中でも沖繩県が戦場となり、住民を巻き込む地上戦が行われ、二十万人もの人々が犠牲となったことに對し、言葉に尽くせぬものを感じます。この機会に、深く哀悼の意を表したいと思ひます」

御製

平成六年

一月七日

昭和天皇五年祭山陵の儀

御製

硫黄島に行幸啓

御製

平成七年

一月三十一日

阪神・淡路大震災被災地をご慰問

御製

平成八年

七月二十七日

北海道南西沖大地震の被災

御製

戦場の跡 眺むれば 平らけき海 その果てに見ゆ

地・奥尻島をご慰問

御製

平成六年

二月十二日

硫黄島に行幸啓

御製

精根を込め戦ひし 人未だ

地下に眠りて 島は悲しき

戦火に焼かれし島に

五十年も 主なき菟麻は

生ひ茂りぬ

御製

平成七年

九月二十五日

日本遺族会五十周年式典にご臨席

御製

荒れし野を 再び森に

なさむとて 集ひし人と

苗植ふにけり

御製

平成十年

二月七日

長野県に行幸啓

御製

長野オリンピック冬季競技大会開会式ご臨席

御製

平成八年

八月二日～三日

沖繩・東京に戦没者の慰霊の旅

御製

世界の人と共に歌ふ

歡喜の歌は響き渡れり

御製

平成八年

（旧日光田母沢御用邸を訪ねて）

球開せし 日光の住処

五十年を越えたる夏に

おとなひにけり
（五十年を顧みて）
五十年の 国進みこし
年月に いたづきし人の
功をしるぶ

平成九年
五月十八日
第四十八回全国植樹祭にご臨席のため宮城県に行幸啓

御製
荒れし野を 再び森に
なさむとて 集ひし人と
苗植ふにけり

平成十年
二月七日
長野県に行幸啓
長野オリンピック冬季競技大会開会式ご臨席
同閉会式ご臨席

御製
世界の人と共に歌ふ
歡喜の歌は響き渡れり

平成八年
八月二日～三日
沖繩・東京に戦没者の慰霊の旅

御製
（旧日光田母沢御用邸を訪ねて）
球開せし 日光の住処
五十年を越えたる夏に

平成四年
五月十五日
沖繩復帰二十周年記念式典
にご臨席

平成三年
七月十日
長崎県雲仙普賢岳大規模火山噴流による被災地をご慰問

平成二年
十一月十二日
即位の礼正殿の儀
十一月二十二日～二十三日
大嘗祭

花まつり

四月二十二日



境内の桜と御神輿

三月の帆手祭、七月のみなと祭と共に「塩竈氏子三祭」に数えられる花まつり。
 安永年間（一七七二〜一七八一）早魃による不作のおり、氏子らが当社に祈願したところ、気候・作柄が回復したため、報恩の意をこめて安永七年（一七七八）三月十日に神輿を出し御神幸したのが始まりとされています。

もとは「弥生祭」と呼ばれましたが、明治五年の太陽暦採用後に祭典日が四月二十五日に改められ、桜の咲き誇る時期であることから「花まつり」と呼ばれるようになりまし。昭和六十年に祭典日が



表参道の神輿渡御

四月第四日曜日に改定され、現在に至っています。
 祭典前日に、神輿は浄間のうちに御神霊の奉遷を終え、当日は午前十時より本殿祭、正午より発興祭、またこれを見送る正午祭が斎行されます。神輿を担ぐのは、一週間前から禊を重ねた氏子たちです。覆面をし白丁に身をつつんだ担ぎ手たちに奉昇された神輿は、各供奉団体を伴って終日市内を渡御されます。
 午後八時には、ライトアップされた二百二段の表坂で壮大な神輿渡御が御覧いただけます。

鹽竈ザクラの日

五月十日

境内の桜のうち、染井吉野より少し遅れて五月の初め頃に見頃を迎えるのが鹽竈ザクラです。

鹽竈ザクラは、御製にも詠まれるなど古くから著名な品種で、国の天然記念物に指定されています。鹽竈神社の社紋は、この花を圖案化したもので、「しおがまさま」を代表する桜です。

当社では五月十日を「鹽竈ザクラの日」と定め、桜の生



鹽竈神社の鹽竈ザクラ

育を祈る祈願祭を斎行いたします。

第十六回

鹽竈神社観桜茶会

五月三日

今年も茶道各流派合同による鹽竈神社観桜茶会が左記の要項で開催されます。

◇主催

鹽竈神社観桜茶会

実行委員会

◇日時

五月三日（木・祝）

午前十時〜午後三時半

◇お茶券

二席一、二〇〇円（前売）

市内茶舗のほか各参加流派

にて販売

◇参加流派

表千家・大日本茶道学会・織田流・玉川遠州流・表千家宮城青年部・裏千家淡交会宮城青年部

◇お問合せ

事務局・滝井園茶舗

〇二二（三六二）三二六一四



しおがまさま 神々の花灯り

四月十三日・十四日

鹽竈市青年四団体連絡協議会主催による「神々の花灯り」が四月十三日（金）、十四日（土）の夜、境内で開催されます。

午後六時半頃からロウソクの灯りが、社殿を始め参道や夜桜を幻想的に照らします。

舞殿では、古代笛・琴・琵琶・雅楽などが演奏されます。鹽竈の恒例イベントとなりました「神々の花灯り」。

ぜひ御参拝いただき、幻想的な夜のしおがまさまをお楽しみ下さい。



舞殿での神楽・悠久の舞

志波彦神社例祭



去る三月二十九日、志波彦神社例祭が執り行われました。宮司以下祭員並びに献幣使・責任役員・総代を始め氏子崇敬者一同、また縁故深い仙台市宮城野区岩切の八坂神社より参列がありました。

そもそも志波彦神社は、宮城郡岩切村の冠川にほとりに鎮座され、「延喜式」神名帳に名神大社として挙げられる由緒と格式を有した古社です。

御祭神の志波彦大神は、国土開発・殖産興業の御神徳を以って、鹽竈大神の奥州平定に御助力された神であり、清和天皇の貞観元年（八五九）

に従四位下の神階を献じられています。その後、京都より勧請された八坂神社と並び祀られて明治を迎えました。

明治四年（一八七二）に国幣中社の社格に列せられました。社地社殿ともに狭隘な状況を憂えた明治天皇の思召により、明治七年（一八七四）に鹽竈神社別宮に遷祀され、志波彦神社・鹽竈神社の合祀がなされました。

昭和十三年（一九三八）に新たに社殿が竣工し、同年九月二十八日、浄閣のなか新宮に遷座されました。社殿は近代神社建築の粹を凝らしたもので、本殿・拝殿ともに朱黒の極彩色漆塗りで、国費により造営された最後の社殿としても知られています。昭和三十八年（一九六三）に塩竈市有形文化財に指定されました。平成二十七年には遷祀百四十の佳節を迎え、御社殿修復工事が竣工しています。

御遷座の奉祝行事が行われた九月二十九日には遷座記念祭が斎行され、多くの氏子崇敬者が参列されます。

鹽竈講社だより

飯坂千人講社祭

去る一月十日、鹽竈神社左右宮拜殿において、飯坂千人講大祭が盛大に斎行されました。

祭典に続き、永年にわたり継続された講員の皆様に表彰状・記念品が贈呈されました。ここに御芳名を紹介いたします。

平成三十年

継続講員表彰者(敬称略)

帆手祭斎行

去る三月十日、氏子三祭の一つ「帆手祭」が斎行されました。

帆手祭は、江戸時代の塩竈での大火災の頻発や景気低迷に対し、火伏せと景気の回復を鹽竈大神に祈願し、天和二年（一六八二）に始まりました。

当日は、神輿世話役会、神馬組、先陣組、御供役会、少年武者組、神子組、後陣組と総勢五〇〇名ほどの大行列が御供を務めました。

◇七十年表彰

菊田 達衛・金子 春則
齋藤 信英

◇六十年表彰

佐藤 信昭・宮嶋 幹
安田 勝美・星 績

◇五十年表彰

渡辺 兼朗

◇四十年表彰

安齋 誠一・斉藤 光朗
遠藤 文雄・角田 正彦

◇三十年表彰

安藤 誠市・斉藤 隆夫

◇二十年表彰

新野 米子・新野 恭央
菊地 憲治

講社祭の御案内

・仙台千人講大祭

四月十五日

・釜石講社祭

四月二十二日

・新潟亀田講社祭

五月二十日

・塩竈千人講大祭

六月二十四日

・講社大祭

十月六日〜八日

各講員の皆様の御参拝をお待ちしております。



表参道を上る御神輿



第七十回奉献乾海苔品評会

去る一月十一日、当社を会場に第七十回奉献乾海苔品評会が開催されました。

当社の産業振興大祭協賛会が主催する品評会は宮城県産海苔の品質改善と生産者の意欲向上を目的として、昭和二十三年に第一回を開催して以来、本年で第七十回を数える事となりました。東日本大震災からの再生を目指す海苔養殖業の振興と発展を図る上で七十回の節目を迎えたことは意義深いものであります。

今期は、生産漁場に種網を張り出した直後の二度にわたる台風の影響により、生産枚数が減少し、品質も低下したため、結果として、昨年度を上回りました。これは宮城県産の海苔が、全国の海苔問屋から評価されている結果であります。

本年は県内各地より一〇一点が出品され、何れも甲乙つけがたく厳正なる審査の結果、優賞（宮城県知事賞）に伊丹幸一殿、準優賞（塩竈市長賞）に大石顕殿のお二人以下、八十四名が入賞を果しました。

当日は、鹽竈神社左右宮で感謝祭が執り行われ、続いて



優賞・準優賞作

数は昨年度の九割弱に留まりました。しかし、単価では高値であった昨年度を上回りました。これは宮城県産の海苔が、全国の海苔問屋から評価されている結果であります。

本年は県内各地より一〇一点が出品され、何れも甲乙つけがたく厳正なる審査の結果、優賞（宮城県知事賞）に伊丹幸一殿、準優賞（塩竈市長賞）に大石顕殿のお二人以下、八十四名が入賞を果しました。

当日は、鹽竈神社左右宮で感謝祭が執り行われ、続いて

技術賞（東北海苔問屋協同組合理事長賞ほか）

宮戸 門馬 猛
宮戸 奥田 正勝

四等賞
（㈱サンエイ海苔賞ほか）
宮戸 門馬 裕太
矢本 相澤 武一
矢本 三浦 一郎

賞状授与の様子

社務所大講堂において表彰式、直会が行われました。出品された乾海苔は、当日祭務所に展示され、多くの参拝者が見学し、色・艶・香りを堪能していました。

入賞者
（敬称略）
優賞（宮城県知事賞）
伊丹 幸一
準優賞（塩竈市長賞）
大石 顕
東宮浜地区 大石 顕
吉等賞（東松島市長賞ほか）
矢本 津田 大
石巻湾 丹野 侃
塩釜市浦戸 内海 健晴
代ヶ崎浜地区 齋藤 吉勝
代ヶ崎浜地区 相澤 栄喜
松ヶ浜湊浜地区 星 兵喜

武等賞（全国漁業協同組合連合会賞ほか）
矢本 相澤 太
仙南支所（巨理） 津田 雅彦
石巻地区 千葉 勝
鳴瀬 熊谷 義宏
代ヶ崎浜地区 坂本 寿
松ヶ浜湊浜地区 大町 昭
松ヶ浜湊浜地区 星 博
塩釜市第一 伊藤 和光

技術賞（東北海苔問屋協同組合理事長賞ほか）
宮戸 門馬 猛
宮戸 奥田 正勝

四等賞
（㈱サンエイ海苔賞ほか）
宮戸 門馬 裕太
矢本 相澤 武一
矢本 三浦 一郎

賞状授与の様子

乾海苔の展示

なおこの内、優賞・準優賞の乾海苔は例年、生産者の手により皇室に献上されております。本年は二月七日に常陸宮邸・東宮御所・秋篠宮邸の各宮家、そして御所へ御献上。



乾海苔の展示

なおこの内、優賞・準優賞の乾海苔は例年、生産者の手により皇室に献上されております。本年は二月七日に常陸宮邸・東宮御所・秋篠宮邸の各宮家、そして御所へ御献上。宮内庁庁舎では献上の際、掌典長殿に御挨拶の上、宮中三殿を拝する榮譽に与りました。

節分祭追儺式

今年一年の厄災消除・家内安全を祈願する節分祭追儺式が、二月三日・四日の両日にわたり計三三六名の年男・年女の奉仕により斎行されました。

志波彦神社前の特設舞台上より年男・年女が福豆を撒くと、集まった人々は御利益のこもった豆に手をのぼしていました。

また、御協賛頂いた約八百点の福景品が用意され、豆と一緒に撒かれた当りくじを手に、交換所には長い行列ができました。

節分祭斎行に当りましては多くの方々のお力を頂きました。左記に世話人以下、御来賓、年男・年女代表、福景品協賛者および協力団体の御



芳名を紹介いたします。

(敬称略)

◆世話人

会長 佐藤 武
副会長 佐藤 一臣
小島 勇馬

◆来賓

二月三日

塩釜警察署長 佐々木裕之

二月四日

伊達家第十八代当主 伊達 泰宗

塩竈市長 佐藤 昭
塩釜警察署副署長 小田嶋 亮

◆年男・年女代表

二月三日

吉木 修

庄司 澄佳

二月四日

小島 邦道

ティーナ・カリーナ

◆福景品協賛者(順不同)

㈱菅原園茶舗・塩釜市商業協同組合・福寿司・ライフ&フアッション たかはし・郷家第三歯科医院・漢方の塩釜芍薬堂・ホテルニュー小松好風亭・稲庭うどん瀧さわ家・翠松亭・鎌田稔・救心製薬㈱・仙台営業所・クラシエ薬房㈱・大和生物研究所・日本クリニク(㈱)仙台営業所・ムサシノ製薬(㈱)バイタルネット・クローラ工業(㈱)・フランス料理レストラン シェ・ヌー・和風スナックつた・大泉光浩・㈱白寿殿・㈱白寿殿 大友義雄・松和産業(㈱)・塩釜地方卸売市場・㈱ごんきや・(有)今野商店・(有)宮本商店・宮本産業(㈱)・第一生命保険(㈱)塩釜営業オフィス・権現茶屋・大場酒



店・(有)たかせさとし美容室・ひとの和はり灸整骨院・写真屋さん21・春日屋商店・(有)松野・水野水産(㈱)・(有)佐々木勸商店・(有)ヤマサ蒲鉾店・(有)合同会社) 顔晴れ塩竈・(有)阿部平蒲鉾店・菓匠 榮太楼・(有)東日本ソルト仙台営業所・東陽防災設備(㈱)・塩釜芳ス(㈱)・ショッパター 佐藤良明・(有)巳仙台屋製麺所・北浜フドセンター・(有)小島蒲鉾店・渡辺米穀店・(有)八百大・(有)直江商店・キクニ(㈱)・すし哲・日野不動産建築設計事務所・(有)石井商店・進藤正毅・えびすや釣具店・(有)阿部善商店・丹六園・(有)ヨークベニマル塩釜店・大黒寿司・(有)増友商店・蜂屋食品(㈱)・阿部勸酒造(㈱)・(有)佐浦・和食の小島・(有)鈴忠・武田の笹かまぼこ・いな長・(有)でん六仙台支店・仙台味噌醤油(有)・(有)小西美術工芸社・(有)松田製粉・日本住宅(有)・マルマ佐々木水産(有)・(有)一ノ蔵・(有)阿部電工・ユカ・コーラボトラーズジャパン(有)ペンディング仙台第二支店・勝山水産(有)

敬神婦人講だより

平成三十年新年会

去る一月二十二日、講員百四十一名参加のもと大講堂において平成三十年敬神婦人講新年会が開催されました。

宮司・講長挨拶に続き「一月一日」を合唱、詩吟・詩舞のあと、乾杯、祝宴となりました。

清興として日頃より鍛えた自慢の踊りや歌が各地区講員有志により披露され、大いに盛り上がり閉会となりました。

「国旗のある自由画
コンクール」入選作品展

「国旗のある自由画コンクール」入選作品展が四月十七日(火)から五月十四日(月)まで神社社馬殿にて開催されます。

多数の応募作品の中から入選作品四十二点が選ばれ、宮城県からは左記の方々を受賞しました。(敬称略)

金賞 小野寺 逞

銀賞 大平 ありす (幼稚園)

銅賞 小林 さくら (小学二年)

銅賞 小島 邦道 (小学二年)

銅賞 小島 邦道 (小学二年)

参拝記録

昨年十二月から本年二月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします (敬称略)

平成二十九年

十二月

- 五日 大崎市・川渡豊齡学級 二十三名
- 七日 長野県・埴原神社総代会 十七名
- 十八日 東京都・神流日会 一六六名

平成三十年

一月

- 三日 参議院議員(自民党) 愛知治郎氏 以下愛知会三十名
- 五日 岩沼市・竹駒神社 千葉博男宮司
- 〃 塩釜ロータリークラブ
- 六日 仙台市・宮城縣護國神社 田中光彦宮司
- 十一日 陸上自衛隊多賀城駐屯地 第二十二普通科連隊 兼多賀城駐屯地司令 二瓶恵司一等陸佐 以下隊員

二月

- 十七日 高橋弘平氏
- 十九日 宮城県神道青年協議会 「大寒禊研修会」参加者
- 二十五日 責任役員・総代会合同会
- 二十六日 栃木県・足利織姫神社奉賛会 三十名

養成所通信

第七十三回卒業式

三月二十五日、当神職養成所第七十三回卒業式が挙行されました。

今回一名の卒業生は、父兄や御来賓の方々をはじめ講師・在所生が見守るなか、これからの希望を胸に式に臨んでいました。

合同実習に参加

一月二十三日から二十五日まで、神社本庁と明治神宮会館において平成二十九年度神職養成機関普通課程合同実習Ⅱが実施され、当養成所より一年生四名が参加しました。本実習は、各養成機関生徒二十二名が一同に会し、相互に研鑽を深め神社界で奉仕する者としての連帯感の醸成を図るためのものです。

期間中は「近代神社神道史」や「皇室の祭祀」「神社本庁の組織と概要」などの講義を受講しました。閉講後は靖國神社を正式参拝し遊就館を拝観しました。

入所試験実施

三月十八日に神職養成所入

所試験が実施され、二名が合格となりました。

作文・国語・社会の試験と面接が行われ、それぞれ緊張した面持ちで臨んでいました。

四月六日には入所式が執り行われ、二年間の養成所生活が始まり、祭式・雅楽の集中講義をはじめ神職となるべく実習に励むこととなります。また新二年生は後輩を迎えて、自覚を新たに実習に励むことでしょう。

博物館だより

新春特別展終了報告

一月一日より二十一日まで「新春刀剣展」を開催。会期中は約三千四百名の皆様にご来館いただきました。

本展示では鋼の美術工芸品として世界的に高い評価がなされている日本刀の魅力を紹介いたしました。会期中は、宮城県美術刀剣保存協会の会員有志による展示解説が行われました。実際の刀剣外装を用いた丁寧な解説で、好評を得たようです。

また、一月二十日には同会主催の刀剣鑑賞会が社務所大

講堂にて開催されました。

国際博物館の日

来る五月十八日(金)はICOM(国際博物館会議)が定める「国際博物館の日」です。

社会における博物館が果たす役割に対する公衆の認識を高めることを目的とするもので、当館では当日は無料で御入館いただけます。

御参拝の折には、ぜひお立ち寄り下さい。

資料出品のお知らせ

四月二十八日から六月二十四日まで多賀城市の東北歴史博物館で開催される特別展「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り」に、当館所蔵の「続日本紀」、「万葉集」(村井古巖本)、「吾妻鏡」の三件を出品いたします。

多賀城市と友好都市関係にある奈良市の東大寺の特別協力を得て、東日本大震災からの復興を祈念する展覧会です。皆様お誘い合せのうえ御覧ください。

〈お問合せ先〉

- 東北歴史博物館 多賀城市高崎一―二二―一〇二二(三六八)〇二〇六

国家安泰 五穀豊穰 家内安全

祭事暦 (四月から六月まで)

毎月

一日 朔日 祭

六日 曲木神社月次祭

十日 御釜神社月次祭

二十九日 鹽竈神社月次祭

二十九日 志波彦神社月次祭

四月

二十二日 鹽竈神社花まつり

二十九日 昭和祭

五月

十日 鹽竈ザクラの日祈願祭

十二日 御神田御田植祭

十三日 氏子崇敬会春季大祭

六月

三十日 夏越大祓式

安産祈願 海上安全 大漁満足

鳥瞰図補修

鹽竈神社東神門下に設置されている境内鳥瞰図が、このたび塗り直されました。

この鳥瞰図は昭和三十年に(株)佐浦様より奉納されたもので境内の様子が一目でわかるものであります。その後、平成二年に補修されましたが、



感謝状の贈呈



補修された境内鳥瞰図

年月の経過にともない褪色が目立ち、再度塗り直されました。

去る二月十一日に齋行された紀元祭の祭典後、拜殿において(株)佐浦・代表取締役佐浦弘一氏に感謝状が贈呈されました。

文芸欄

春雨の音に合わせる牛の声
日かげれば風が頬切る落のとう
歳時記に見つけし師の名梅白し
通院の杖の先より日脚伸ぶ
湯上がりの障子明かりの余寒かな
犬ぶぐり力もらひに神社まで
滾る湯に磯の香満ちる新若布
決断の女は疾し寒椿
音読の行間に入る雪解雫
偽らずありのままなり落の臺

佐藤 みね
渡辺 智賀
佐々木 和子
太田 サチコ
神野 礼モン
汁田 よし子
大友 セツノ
横田 みち子
上田 由美子
山田 桃晃

ご結婚 おめでとう ごぞいませす

二月

多賀城市 長谷川 祥
リトアニア ダイバ
アジュバリテ

新潟県 田代 哲哉
仙台市 白田 香織

仙台市 田畑 洋行
石巻市 今井 香菜

栗原市 高橋 孝矢
大崎市 佐藤 美子

仙台市 永井 大喜
名取市 阿部 真弓

兵庫県 梅鉢 寛
塩竈市 阿部 仁美

東松島市 阿部 順
千葉県 鶴岡 麻利
(敬称略)



銅板奉納者芳名

昨年十二月から本年二月にかけて多くの方々より銅板の奉納を頂きました。(敬称略)

十二月

愛知県 村木 雄二
ほか一二七名

一月

兵庫県 碓乃羽弥音
ほか七七名

二月

静岡県 山下ひし乃
ほか五六名

人事異動

昇級 (三月十日付)

神職身分二級上

禰宜 小野 道教

新任 (三月二十九日付)

巫女見習 稲富 千愛

阿部 すみれ

佐藤 美月

退職 (三月三十一日付)

巫女 蠣崎 理紗

松本 ゆりか

森 早央里

森山

一昨年より始まった門および廻廊の修復工事も竣工し、境内の桜とあわせて一森山が益々鮮やかです。(慶)